大会長からの開催メッセージ

第 7 回日本予防理学療法学会学術集会
大会長　　吉田　剛
（高崎健康福祉大学）

今や日本は 2025 年に向けて未曽有の超高齢社会を迎えようとしており，この問題に日本がどのように取り組み解決していくのか世界中から注目されているところです．分科学会独立開催となった第 5 回大会（福岡）では，再発予防，疾病予防，健康増進をテーマとし，第 6 回大会（広島）でもテーマとなった健康増進は，健康寿命の延伸を図るために必要不可欠な視点となっています．

私たちが幸せな明るい社会を作って未来を切り開いていくためには，子どもたちの運動器の機能低下を予防し，スポーツを楽しむ中で生じる障害を予防し，仕事で生じる腰痛を予防し，適切な運動習慣を身につけて生活習慣病の発症を予防し，加齢変化で生じるフレイル，サルコペニア，認知症を予防することについてきちんと取り組んでいく必要があります．その中でも栄養と運動は，健康寿命の延伸には欠くことのできない大切な要素です．

前の 2 大会と同様に専門的な予防的介入が求められる産業理学療法部門と栄養・嚥下理学療法部門との共同開催を企画しています．学術大会の本来の責務は学術活動ですが，2 つの部門はこれから拡大を図るために啓発が必要な分野でもあり，職能面の情報共有や発展に向けた連携促進を合わせて企画しています．特に，本大会では栄養・嚥下面に着目して連携を図る学会になります．理学療法士が地域社会の中で，その地域にある社会資源を掘り起して活用し，その地域のニーズに合った問題に対して，有効なアイデアや介入方法，教育機会を提供し，政策に対しても助言することができれば，予防で明るい未来を拓くことが可能であると考えています．その力を蓄積するためにも以下の企画を立てました．

学術大会企画においては，特別講演（リハ栄養の若林先生など），教育講演，パネルディスカッション，市民公開講座など盛りだくさんの内容を計画しています．また，地域の予防活動の発表の場となるようなコミュニティの場を設け，特別演題として，主に動画での活動実践報告演題（予防・栄養嚥下・産業）を募集したいと考えています．

第 7 回学術大会が行われる群馬県高崎市は，東京から 50 分で来ることができる新幹線の中継地点（上越・北陸・長野）であり，駅から徒歩 10 分の利便性の高い最新のコンベンションホール（G メッセ群馬）で行います．会期は 2020 年 9 月 26-27 日です．秋の気候の良いなか大都市に負けない素晴らしい学会ができるよう準備してお待ちしたいと思います．

皆様，ぜひともこの学会に参加して高いレベルでの予防実践ができるための良い機会として頂けることを心より期待しています．